

春まきたまねぎ栽培における「トタナ」の収穫適期

【1 成果の内容】

- (1) 岩手県の春まきたまねぎ栽培において、「トタナ」は肥大性が良く、県南部での定植適期が5月上旬まで確保されているため、他品種と組み合わせた作期分散が可能な品種ですが、裂皮球の発生が多く、腐敗球発生も懸念されています(図1)。春まきたまねぎ栽培における収穫時期は、通常50%倒伏の1~2週間後ですが、欧州産品種「トタナ」は慣行の国産品種と収穫適期が異なる可能性があるため、収穫時期の前進化による腐敗や障害球等の軽減効果について検討しました。
- (2) 「トタナ」の収穫時期を圃場のおよそ20%~50%が倒伏した頃に前進することで、腐敗球および障害球が大幅に減少し、5.5~6.0t/10aの商品収量が得られます(表1)。

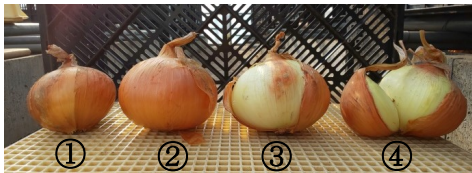


図1 「トタナ」に発生した障害球

- ①「もみじ3号」正常球 ②「トタナ」正常球
③「トタナ」裂皮球 ④「トタナ」外部分球

表1 収穫時期別の収穫調査結果(2019年 県北農業研究所)

品種	収穫時期	収穫日	りん茎 横径 (mm)	りん茎 高さ (mm)	調製重 (g)	出荷規格割合(%)						腐敗球 率 (%)	障害球			商品 収量 (t/10a)
						>2L	LL	L	M	S	規格外		裂皮球 率 (%)	外部 分球率 (%)	内部 分球率 (%)	
もみじ3号	20%倒伏日	7/13	77.2	64.7	205.0	0	0	31.7	62.5	4.2	0.8	1.7	0	0	2.5	4.4
	50%倒伏日	7/18	80.3	66.7	229.1	0	1.7	50.0	45.0	1.7	0.8	0	0	0	0	5.1
	50%倒伏7日後	7/29	88.3	71.5	301.0	1.7	38.3	50.8	6.7	2.5	0	0	1.7	0	6.7	6.5
	50%倒伏14日後	8/1	88.6	73.2	307.9	5.8	43.3	40.8	9.2	0	0.8	0	5.0	0	11.7	6.5
トタナ	20%倒伏日	7/28	91.1	71.0	315.8	25.0	32.5	26.7	13.3	2.5	0.8	5.8	10.0	1.7	12.5	5.9
	50%倒伏日	8/2	93.2	73.8	341.9	25.0	37.5	30.8	5.8	0	1.7	5.0	12.5	0	20.0	6.3
	50%倒伏7日後	8/9	102.1	78.0	428.4	60.8	28.3	8.3	2.5	0.8	0	6.7	28.3	5.8	23.3	5.6
	50%倒伏14日後	8/16	106.4	79.3	459.5	70.0	23.3	5.8	1.7	0	0.8	22.5	45.8	11.7	20.8	3.7

1区40球、3反復

商品収量:規格外(横径6cm未満)、欠株、腐敗球、裂皮球、外部分球、抽だい株を除いたもの

倒伏開始日:調査圃場内で20%程度倒伏した時、過半数倒伏日:調査圃場内で50%程度倒伏した時とした

【2 留意事項】

- (1) 20%~50%倒伏時期の収穫では、葉鞘部分の新鮮重が重いいため、50%倒伏の1~2週間後に収穫したものより、乾燥に時間を要する可能性があります。
- (2) 地干し乾燥を行う場合は、20%~50%倒伏時期が根切り適期と推察されますが、詳細については、今後試験を実施します。
- (3) 「トタナ」の20%~50%倒伏の時期は、倒伏開始日から3~7日程度です。
- (4) 「トタナ」の定植適期については、「令和元年度試験研究成果」をご覧ください。
- (5) 病害虫防除は5月下旬~7月下旬まで、10日間隔で薬剤散布を実施しました。
- (6) 春まきたまねぎの栽培方法全般については、「春まきタマネギ栽培マニュアル」をご覧ください。
- (7) 詳細につきましては、「令和元年度試験研究成果」をご覧ください。

※ 本成果は農研機構生研支援センター革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきタマネギ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証」による成果です。